



Advanced Doctoral Program in

Global Resource Management

Doshisha University



多分化共生社会の実現に挑む
グローバル・リーダーの養成をめざして

人材養成に関する目的・教育上の目的

グローバル・リソース・マネジメント (GRM) コースとは

GRMコースは博士前期課程・後期課程所属の全大学院生を対象としたアドバンスト・リベラルアーツ科目群の一部です。多様なバックグラウンドを持つ大学院生が専門分野や国籍の区別なく、英語で共修する点が大きな特徴です。科目等履修生である社会人と共修できる環境もあります。

「リソース」を天然資源に限らず、人的資源・社会関連資本を含め広く定義し、それらの「リソース」を適切かつ公正に管理・運用することにより、共通リソースとしてのインフラストラクチャーを持続可能な発展と人々の平和と安寧のために構築・改善していくことをその本質に据えています。

不確実性の高い現代においては、ポジティブな発想で描く未来もありますが、困難な状況を克服してこそ見える未来もあります。世界が向き合う、社会を一変させるような困難から、私たちが学ぶべきことは実に多くあることでしょう。困難に直面した際、それを避けずに思考を巡らせ、他者と共に克服するための「知恵」に加え、自身の専門分野外の基礎的な知識や「大学院レベルの高度なリテラシー」を身に付けることができるコースです。

人材養成目的

GRMコースでは、科学を実地に応用し、人間の生活に役立てることを目的とする技術を有するに留まらず、科学と科学、科学と技術、技術と技術を掛け合わせる「知恵」と人に寄り添う「良心」を有する人材、すなわち「Con エンジニア、イノベーター」を養成します。ここでいう技術には、人間関係構築、組織プロジェクト運営にかかる実践スキルを含みます。

カリキュラム・ポリシー

「学習計画を自分で設計すること」を基本とします。必修科目には海外実習科目が含まれます。海外実習により、「現地の実情と課題」に触れ、実践的な問題解決のための提案をグループで検討・策定します。習得すべき知識や開発すべき能力、必要な視点を認識し、以後の学習計画を自ら設計するための経験を得るために、できるだけ早期に履修することを推奨します。選択科目では文理の区別なく、課題解決に必要となる分野横断的な知識や視点を幅広く学びます。得意な分野を学び更に伸長させることも、不足している分野の学習を深めることも可能です。

GRM コースの履修

履修資格

博士課程の前期課程・後期課程に所属する全大学院生に履修資格がありますが、修得した単位の取扱いは、研究科毎に異なります。多くの研究科で課程修了に必要な単位に算入されますが、算入の可否、算入単位の上限等は、所属する研究科の履修要項で確認し、履修計画を立ててください。



履修手続

本コースは、1科目から履修が可能です。所定の履修科目登録期間にDUETで登録してください。

なお、「On-site Group Work」は海外での実習を伴うため10名程度の定員とし、登録者が多い場合には選考を行います。選考により履修できなくなった場合には、同時履修が必要な「On-site Group Work Introduction」と併せて、登録を削除することになります。



修了要件

必修科目6単位を含む10単位の修得が必要です。

GRM コースの修了

修了に必要な期間

本コースは1年間での修了が可能です。また複数年かけて修了することも可能です。

博士前期課程・後期課程のいつからでも履修を開始できます。

修了判定

GRM科目履修者にはコース修了の希望を調査し、修了希望者を対象にコース修了を判定します。コース修了可能者には、学習歴のデジタル証明であるオープンバッジの発行について案内します。



オープンバッジ

必修/ 選択	科目コード	クラス コード	科目名	担当者	単位	期間	校地
必修	35650600	000	On-site Group Work Introduction	大西 有子	2	春学期	今出川
	35650601	000	On-site Group Work	大西 有子	2	春学期	今出川
	35650651	000	Seminar for Advanced Liberal Arts	大西 有子 内藤 正典	2	秋学期	今出川
選択	35650611	000	Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity	小山田 英治 稲葉 稔 長岡 直人 千田 二郎 八木 匡 濱 真一郎 大西 有子	2	春学期	リアル タイム オンライン
	35650621	000	Mathematics and Physics as Liberal Arts	Camille-faith PASCUA ROMERO	2	春学期	リアル タイム オンライン
	35650622	000	Infrastructure Design for Human Communities	Camille-faith PASCUA ROMERO	2	秋学期	リアル タイム オンライン
	35650623	000	Environmental Earth Science as Liberal Arts	大西 有子	2	秋学期 集中	リアル タイム オンライン
	35650624	000	Global Resource Management: Interdisciplinary Approach 1 -Climate Change-	大西 有子	2	春学期 集中	リアル タイム オンライン
	35650634	000	Global Resource Management: Interdisciplinary Approach 2 -Cocreation and Transdisciplinary-	大西 有子	2	秋学期 集中	リアル タイム オンライン
	35650625	000	Global Resource Management and Sustainable Development Goals 1	大西 有子	2	春学期	今出川
	35650635	000	Global Resource Management and Sustainable Development Goals 2	大西 有子	2	秋学期	今出川
	35650631	000	Global Resource Management and International Relations	Seifudein ADEM	2	春学期	リアル タイム オンライン
	35650632	000	Research Methods of Social Sciences	Seifudein ADEM	2	秋学期	リアル タイム オンライン
	35650633	000	Global Society in the Modern World	小山田 英治	2	秋学期 集中	今出川
	35650641	000	GRM Topics 1 -Natural Hazards and Disaster Management-	松川 杏寧	2	春学期 集中	今出川
	35650642	000	GRM Topics 2 -Topics in Mathematics for Information and Data Sciences-	徳山 豪	2	春学期 集中	今出川
	35650643	000	Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works	上田 光明	2	春学期 集中	今出川
	35650644	000	Introductory Laboratory of Infrastructures	池田 陽紀	2	春学期	京田辺

- ・全科目とも配当年次は「M1～」です。
- ・授業は英語で行われますが、履修生の語学力を考慮して、部分的に日本語で行われることもあります。
- ・履修生の通学校地のバランス等により校地を変更する可能性があります。
- ・集中講義以外の教室で行われる科目について、オンデマンド配信の授業(1週目のDO Week等)の有無はシラバスで確認してください。配信授業がない場合は科目担当者が別途、日程を設定します。
- ・「On-site Group Work」は「On-site Group Work Introduction」と同時履修が必要です。
- ・「Introductory Laboratory of Infrastructures」のみ週4時間。その他の科目は週2時間です。

コースの特色と目指す人材像

— 多様な他者と共に困難を克服できる人材 —

困難を克服する 「知恵」と「リテラシー」を身に付ける

不確実かつ複雑で曖昧さを含んだ現代社会は、将来の予測が一層困難な状況を迎えています。GRMでは、世界を一変させるような困難に遭遇しても、思考を巡らせ科学を実地に応用し、実践的なヒューマンスキルを駆使して克服する「知恵」や他者と共に立ち向かう強靱な「リテラシー」を身に付けます。



現場で学ぶ、現地に学ぶ

GRMでは2012年のプログラム開設から一貫して、現場を訪れ、現地で現実に触れることを重視してきました。学生は現地で現実社会が抱える困難な状況を体感し、自分の現在の能力を知ります。その経験からGRMで何を学び、これからどのような能力を獲得すべきか深く考えます。現場と教室での学びの両立。これが今に続くGRMの理念です。



英語で学ぶ、敢えて困難に挑む

GRMでは英語を学ぶのではなく、英語「で」学びます。GRMでは、様々な国籍の学生が共修します。授業はもちろん、学生の発表も英語で行われますが、英語が得意でない学生も多く履修しています。始めは上手いかなくても、敢えて困難な状況に身を置き何度も挑戦する経験により、学生は自身の想像を超えた成長を遂げます。



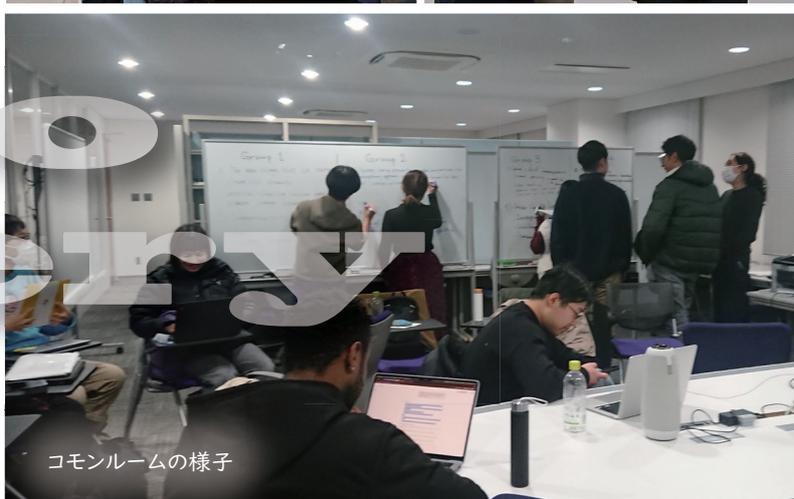
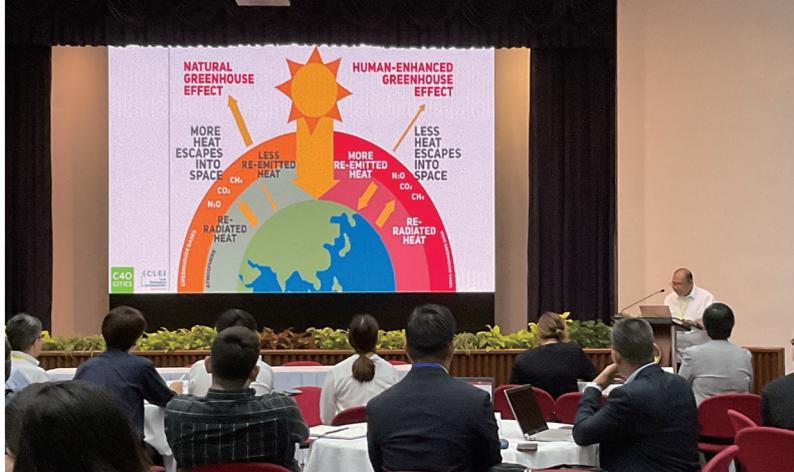
大学院修了後の キャリア形成につながる

所属の研究科で身に付ける専門性とは別の視点から、大学院生にふさわしい基盤的な能力を獲得します。GRMで身に付けたひとつの領域にとどまらない知識や複眼的な視野は、大学院を修了した後のキャリア形成に大いに役立ちます。





on-site 実習



コモンルームの様子



▲ 最新の活動



TIC (ダイキン工業) 訪問

Q

GRMに参加した動機は何ですか。

「文理融合」というコンセプトに興味があったからです。

A

A

GRMプログラムの目標に興味があり、国際的な研究者と一緒に学ぶことを求めていたからです。

専門以外に対しても視野や知識を広げたく、様々な背景を持つ人と交流する機会を増やしたいと考えたから。

A

A

自身の理系のバックグラウンドと人文科学で得た知識を結びつけるのに完璧なものだったからです。



Q

企業で働いていてGRMプログラムを学んでよかったと思うとき、役立ったときはどんなときですか。

A

GRMプログラムは、現在のプロジェクトにおいてタスクマネジメントやコミュニケーションスキルを高めることに役立っています。

A

文理や学問分野の垣根を越えた視点で課題に向き合い、必要であれば新たな専門分野も学ぶ態度をGRMプログラムの中で身に付けたことで、自分の専門分野内に閉じこもらず、解決すべき課題に向き合っていると感じます。

A

困難に直面したとき、物事を多面的に考えることができるようになりました。

A

早くからSDGsなど世界規模で取り組まれている事柄に対して、学ぶことができたことだと思います。

A

特に効果的なコミュニケーションにおいて役に立っています。テクノロジーのことについて説明するとき、相手が理解しやすい方法で伝えることというような場面です。



後輩たちへ

メッセージをお願いします



何も失うものはありません。履修しないなんてもったいないですよ。



GRMでは、一般的な学生生活において得にくい経験を数多く得ることができます。迷っている人は是非とも参加してみてください。



もし、あなたが非常に魅力的で学際的な研究環境を探しているなら、私はGRMプログラムを強くお勧めします！



自分の関心や疑問を追求して専門性を獲得する経験は、その後も様々な場面で発揮できる強みになるはず。そのためにGRMプログラムが役立つと思うなら、ぜひ活用してみてください。



迷うのは、GRMプログラムに参加したい証拠。

Message

プログラム・コーディネーター

内藤 正典

(グローバル・スタディーズ研究科教授)



本コースは、平成 24年度の博士課程教育リーディングプログラム（リーディング大学院）複合領域型（多文化共生社会）において、採択された「グローバル・リソース・マネジメント」に由来する。

人間生活の基盤となる資源・エネルギー・インフラ科学と、地球規模の課題群を扱うグローバル・スタディーズの融合を基にした「グローバル・リソース・マネジメント」という文理融合の学際領域を学ぶという理念を継承しつつ、この間10年あまりにおよぶプログラムの実施によって得た知見をもって、2023年度より新たに大学院共通教育科目プログラム「アドバンスト・リベラルアーツ科目群」を構成する「グローバル・リソース・マネジメントコース」として再編する。

大学院学生が社会で広く活躍するために、必要な能力は何であるかと問われれば、広義のリテラシーであるといえよう。これは、いわゆる「読み書き」の能力を指すのではなく、いわば「これまでに得た知識を土台に様々な情報を活用して、未知の問題や困難、危機に対応できる知恵」と換言できる。もちろん大学院での学びによって身につけた専門性が重要であり、その根幹を成すことに疑いの余地はない。しかしその一方、

それだけでは十分とは言いきれない程度に社会が変容していることもまた疑いのないひとつの事実である。

このコースでは、専門性とは別の観点から学ぶことを重視する。座学によって自身の専門分野以外の基礎的な知識を身に付けることと同様、災害や資源など地球規模的な課題を抱える現場を訪れ、現場から学ぶ過程や演習を重視する。コース履修生は、他の学生との共修により困難を克服した経験や、協働を通じた新たな気付きと刺激から成長を遂げるのである。これこそ、さまざまな要件が絡み、複雑さを増す現実社会の課題解決において求められる汎用的な能力、リテラシーであるといえる。

本コースは、「次の環境」協創コース、「Comm 5.0 -AI・データサイエンス副専攻」とならび大学院共通教育プログラム「アドバンスト・リベラルアーツ科目群」を構成するコースのひとつである。コース履修生が大学院生・研究者としての広範なりテラシーを身にまとい、アカデミア、ノンアカデミアに関わらず社会の多様な分野で貢献できる人材を育て、輩出していくことが「グローバル・リソース・マネジメントコース」の人材養成目標である。



同志社大学
Doshisha University

高等研究教育院 <https://grm.doshisha.ac.jp>

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL:075-251-3259 MAIL:ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp

